

ここにも貨物駅 (JR貨物)

沼津駅

沼津市本字下中溝 601-4

沼津市は首都圏から西に
二〇キロ、静岡県の東に位
置し正面に駿河湾と西伊豆
を臨み、西側に箱根の山々
を貫く交通の要衝である。
江戸時代から東海道の宿
場町として栄えたこの土地
は鉄道が開けるのも早く、
沼津駅は明治二十年、国
府津と静岡間が開通するの
に伴い、営業を開始してい
る。貨物基地はこの沼津駅
から東海道本線をきりこぼし

三面の コンテナホーム

ヤードの面積は約七七
平方メートル、二二キロフォ
ークリフト（内予備一両、
二〇キロ用フォークを二台設
備している。構内を東西に
貫くように建てられた上屋
を中心に付設線が二本敷設
され、上屋と線路に挟まれ
るように待役ホームが三面
広がる。上屋は現在、簡易
保管庫として運用。地域の
業者が貸出している。この

沼津駅のコンテナ発着個

数は二二万五千個で、発着が
一日平均四十六個（年間約一
一、五〇〇万）に到着する。
個（同約二二、七五〇万）。
主要荷主は二島市の二島駅
に専用線を持つ化学繊維工
場と製薬工場、伊豆半島は
大井町の化成製薬所や沼
津市内のオフィス関連機器



沼津駅のコンテナヤード

各地から諸種原料着く

イルム場に配達するタン
クコンテナが何個も着かれ
ていて、これが駅の特徴を
際立たせている。
沼津から静岡まではおよ
そ五〇キロしか離れていない
しかしその間に流れる富士
十川の東岸、田子の浦周辺
は紙工場の密集地であり、
沼津駅から西二五キロに紙
用の吉原二〇キロ富士駅
と大都田園なみに貨物駅が
集積している。この地域の
特色をよく表わしている。
沼津営業所では産業廃棄
物の輸送を平成十一年から
始めた。汚泥などの産廃を
月平均一〇個から十五個
二〇キロの私有コンテナを保
つ。二〇キロの私有コンテナを保
つ。二〇キロの私有コンテナを保

有る処理業者の元へ、新
南陽駅まで送っている。現
在さらに御殿場中と小山町
が共同で行う新規の産廃輸
送の誘致を西宮自治体に折衝
中で、今後この方面にも積
極的に営業を拡大してい
く方針だ。

コンテナ列車の発着は始
発本、終着本、貨車の
解組が一本ある。駅の目の
前には重電機器工場の特
田線と、二島駅の貨車入れ
替え作業も沼津駅で管理し
ている。

同駅では傷みのひどかつ
た西二番ホームを今年
二月に修理した。このホ
ムから、旅客線を挟んで向
こつ側には重電機器工場の専
用線が敷かれ、特大貨物を
輸送するトキ車とときおり
姿をみせるという。駅を訪
れた日ロも、一月十八日に
動いたばかりというトキ車
が沼津駅に戻ってきて、工
場内に収められるのを待つ
ていた。



タンクコンテナを積んで駅
に着いた列車

タンクコンテナを積んで駅
に着いた列車

タンクコンテナを積んで駅
に着いた列車